



よねくら つとむ よねこ
米倉 邁さん 容子さん

社交ダンス講座の誕生

1996年公開の映画『Shall We ダンス?』のヒットをきっかけに幅広い層に知られるようになった社交ダンス。日本で広まり始めたのは終戦後、進駐軍が地方都市にもダンスホールを作ったことがきっかけの一つとされています。その後、東京では出会いの場としてダンスパーティーが流行しましたが、一方で「若い男女がダンスなんて」といふかしがる風潮は1960年代も根強く残っており、ダンス教室の開設は熊本でも容易ではありませんでした。

ところが、熊本YMCAは1965(昭和40)年にダンス講座を開講しています。当時、多くの人が勉学に通う場所だった熊本YMCA(中央区新町の中央センター)でダンス講座を開講したい。この提案に理事会では激論が交わされましたが、ダンスが規律を重んじる文化を継承していること、競技性が高く、人格・技術ともに優れた講師(青山元紀氏 1989年まで指導)がいることが認められたのでした。

当時、金融機関の若手社員だった容子さんは19歳。3期生(1期は3カ月)として社交ダンス講座に通い始めました。持ち前の明るさと手際のよさを講師から認められ、容子さんはほどなくしてアシスタントを務めることになります。「これがボランティアよ」と先輩アシスタントに言われた20歳の容子さん、英和

始まりは社交ダンス 共に歩んだ50年

辞典でボランティアを調べましたがどうしても見つけれられません。「私、ボランティアの頭文字は“b”だと思い込んでたの」。日本で「ボランティア」が定着するおよそ30年前に、容子さんはYMCAでボランティアの世界に出合っていたのです。

9期生としてYMCA社交ダンス講座のドアをくぐったのが当時23歳の邁さん。すでに受講生は100名を超え、講座を修了した人たちの「ダンスクラブ」が立ち上がっていました。急死した父親から会社を引き継いだ邁さん、会社と社員を両肩に背負って休みなく働く毎日でした。「整然としたレッスンと受講生同士の絆に、会社とは違う世界を見た気がしました」と邁さんは語ります。邁さんと容子さんが出会ったのもダンスクラブでした。

社会貢献活動への広がり

1971(昭和46)年、二人は結婚。容子さんは邁さんの会社で働き始めます。二人は、会社、家事、子育てをこなしながら週1回のダンスクラブ、ダンス講座の週4回のアシスタント、そして競技選手としてのレッスンのため連日YMCAに通いました。ダンスクラブは、野外活動、ボランティアと活動領域を広げていきます。容子さんは、次第にダンスクラブに集う青年たちの中核メンバーとして様々な役割を担っていくようになりました。「なんの専門性もなかった私がリーダーとして成長できた。これがYMCAですね」。

すそ野が広がり活発に活動するダンスクラブ。その一人だった容子さんは、1984(昭和59)年、熊本YMCAの常議員に選出されます。すでに容子さんの役割はYMCAの社会貢献活動の方針を決める重要な立場にまで広がっていました。



全九州選手権競技大会に出場する米倉さん夫婦

まだ見ぬ世界が人を育てる

「夫は外で仕事、妻は家庭で家事と育児」の風潮がまだまだ当たり前だった頃、時代の先を歩んでいた米倉さん夫婦。

容子さんは「私は、教師・公務員一家に育ちました。両親からはいつも『教師の道へ』と言われていましたが、私はあえてその道を選択しなかった。自分の道は自分で決める、でいいんです。今はまだ知らない世界が人を育てる。私にとってはそれがYMCAでした」と話します。邁さんは昔も今も「家庭と仕事が基盤。帰る場所さえ忘れないようにすれば、あとは自分のやりたいことをやったらいい」。

YMCA会員歴50年を迎えた米倉さん夫婦。ともに70歳を超えました。今も会社のスケジュールはずっと先までびっしり。スケジュールで埋まった手帳にはYMCAの活動予定もこれまでどおり記されています。

Pickup

楽しくチャリティ
フィランソロピー協会
ボウリング大会



「プール楽しいね」
体育英語幼児園
ペンギンクラス

「枝豆とれたよ!」
リフレスおおむた
がまだす隊



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

7月29日 Sunday

城下町ゆかた祭り同時開催 上通チャリティー市場

上通YMCAでは今年も城下町ゆかた祭りにあわせて「上通チャリティー市場」を開催します。食器、日用雑貨のみの市、食バザーなど盛りだくさん。当日は、ゆかたの着付けステーションも併設します。今流行りのパラコードクラフト教室も開催予定！収益はすべてYMCA募金と熊本YMCAの公益活動に宛てられます。

回 7月29日(日) 10:00～15:00
場 上通センター(上通アーケード内)
問 上通センター Tel 096-352-2344



チャリティ
×
楽しむ

ユースが輝く場所 YMCAリーダー会メンバー募集

YMCAリーダー会は、子どものための野外教育やスポーツ指導、国際協力活動にボランティアとして関わるグループです。主に、高校生・専門学校生・大学生で構成されています。

ボランティア
×
交流



登録はwebで

こどもスポーツプログラム

図 幼児・小学生・中学生対象のスポーツプログラム(水泳・体操・新体操・サッカー)の指導補助。

場 中央・みなみ・ながみね・むさしセンター

回 平日 15:30～20:30 うち3～5時間程度 ※給与支給あり。

場 ながみねファミリーセンター Tel 096-385-0676 担当／竹下

こどもたちの野外活動(日帰り・宿泊)

図 こどもたちと自然体験や感動を共有していくボランティア。

回 日帰り(月1回 日曜日)・宿泊(年3回 土・日曜日) ※各月活動日程に基づく

場 むさしセンター Tel 096-248-6334 担当／平井

発達障がい児支援プログラム

図 YMCAスタッフの指導のもと「発達障がい」というスペシャルニーズを持つこどもたちの水泳・体操をサポートするボランティア。場所・時間などの詳細は担当までご連絡を。

場 ながみねファミリーセンター Tel 096-385-0676 担当／竹下

国際ユースボランティア

図 月2回の定例会でディスカッション、プレゼン、ディベート等を開催。留学生との交流、仮設団地や児童養護施設の他、国内外でのボランティアなど、幅広い分野での活動が可能。

場 上通センター(熊本市中央区 上通アーケード内)

回 毎月第2金曜 18:30～20:00／第3土曜 17:00～19:00

場 本部事務局 Tel 096-353-6397 担当／工藤

8月23日～9月2日

出会うべき世界が、そこにある。 第23回タイ・ユースワークキャンプ

熊本YMCAが長年支援活動を行っている北部タイで、山岳民族の暮らしや文化にふれ、相互理解や異文化交流を深めます。彼らの自立支援のため、タイの人々と協力して生活設備の整備を手伝います。また、現地の子どもたちとの交流を通して、タイの抱える問題や文化・歴史についても学びます。

これまで多くの人が参加し、生き方・考え方が変わったという声が聞かれるワークキャンプ。あなたも、北部タイ少数民族の村の人々の暮らしを共に体験し、彼らの前向きな生き方にふれ、「真の豊かさ」について考えてみませんか。

回 8月23日(木)～9月2日(日) 場 タイ チェンライ・パヤオ 図 高校生～35歳(健康に問題がなく主体的に参加できること) 費 26万円 ※青少年に限り最大で6割の助成あり 定 20名(最少催行人数8名) 場 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



学び
×
交流

回日時 場会場 図内容 費参加費 定定員 図参加条件 図持ち物 図対象 催主催 締締切 申申込 問問合せ 他その他

岡 総主事の タラン トン Vol.49



経験を活かして

～午前7時58分頃、大阪府北部の深さ約13kmを震源とするマグニチュード6.1の地震が発生しました～

2018年6月18日の朝、大阪府北部を中心とした大きな地震の速報が流れました。全国YMCA総主事会議のため、全国のYMCAの総主事が御殿場にあるYMCA東山荘におり、その場で状況、安否の把握などが行われました。優先

すべきことを見極め、決断する力と行動する勇気が、日々問われていることを改めて感じました。

刻々と情報が集まり、状況が見えはじめる中、熊本地震の前震、本震の恐怖が頭をよぎります。大阪府、おおさか災害支援ネットワーク、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)などの各団体の動きも早く、SNSや様々なネットワークを駆使して情報収集、支援の調整が行われている様子に、勇気づけられました。収集された情報の中には、「大阪YMCAの人が学校に来て、YMCAに協力できることがないかを確認していた」というものもありました。地域に寄り添うYMCAの姿にうれしく思いました。

災害時に孤立する人を生み出さないために

重要とされる「障がい者・難病者支援」「外国人支援」「こども支援」。被災地障害者センターを立ち上げる動きがある他、避難者の9割が外国人という避難所があるという箕面市では、市の国際交流協会が巡回し、コミュニケーションをとっていると聞きました。災害時には、外国人が情報弱者となりがちです。連携体制をいかににつくっていくかがポイントとなります。

季節も梅雨前線が活発となり、大雨の恐れがあります。土砂災害などの二次被害の拡大防止、応急危険度判定、必要とされる救援物資の提供など、各団体がこれまでの経験を活かし、ニーズを把握しながら対応がなされていきます。

熊本YMCAでは、2年前の熊本地震の経験を活かし、私たちにできる支援を全国のYMCAと協力して行っていききたいと思います。

t a l a n t o n

R | E | P | O | R | T

[5月25日⇒ 6月9日]

会員運動

創立70周年に向けて 熊本YMCA会員大会を開催

5月25日(金)、中央センターで熊本YMCA会員大会が開催され、123名の会員が一堂に会しました。

初めに第1部礼拝が行われ、熊本東聖書キリスト教会の豊世武士さんが奨励。自身の熊本地震での被災経験を振り返りながら、試練の中から見出された光についてメッセージが語られました。熊本YMCA会長の福島貴志さんによる挨拶に続いて始まった第2部特別講演では、前アジア・太平洋YMCA同盟総主事の山田公平さんが「これからのYMCA運動の方向性」と題して講演。YMCAの国際性、ユース育成、ワイズメンズクラブとの協働などについて話しました。(4面に関連記事)

第3部の表彰では、永年在籍10年、20年、30年、

40年、50年の会員を表彰。50年表彰を受けた米倉邁さん(1面に関連記事)が喜びの挨拶をしました。また、YMCAの活動を支えた個人、団体に感謝状が手渡されました。

第4部定期総会では、2017年度事業報告及び収支決算報告、2018年度事業計画及び収支予算報告が総主事の岡成也さんから行われました。「地域支え合い運動3カ年計画」のもと展開された熊本地震の復興支援についても報告。今後も「誰も置き去りにしない」活動を継続していくことが話されました。その他、1年間の活動を振り返り、「日本のYMCAはこれからも地域社会に必要とされ、多くの方々に選ばれる存在となるために、“みつかる。つながる。よくなっていく。”を新しいスローガ

ンとして掲げ、歩み始めました。熊本YMCA創立70周年を迎える今年度、互いを認め合い、高め合う“ポジティブネット”のある豊かな社会づくりを目指していきます」と締めくくりました。



第1部 礼拝



第2部 特別講演



第3部 表彰



第4部 定期総会

保育

日頃の感謝を込めて 園児が地域を訪問

6月6日(水)、YMCA水前寺幼稚園でとても大切に行っている行事「花の日礼拝」と「花の日地域訪問」を行いました。

礼拝では、セブンスデー・アドベンチスト教団熊本キリスト教会から牧師の高木義萌さんを招き、アメリカの教会で始まった花の日の由来と、キリスト教にまつわる話を聞きました。森永製菓創設者の森永太郎さんの渡米、労苦、キリスト教との出会いと信仰への導きについてわかりやすく話され、子どもたちは神様の恵みを学びました。

その後、年長のつばめ組・ひばり組の子どもた

ちは、熊本市上下水道局を訪問。続いて、クラスで分かれて熊本市消防局出水分所と江津交番を訪問しました。

年中、年少のクラスも、それぞれ地域の小学校や郵便局、企業を訪問。子どもたちは「いつも見守ってくださりありがとうございます」と元気よく挨拶して、感謝の花のアレンジメントと、自分たちで作ったメッセージカードを贈りました。

YMCAでは他に保育園や体育英語幼児園でも同様に、地域の人たちに感謝の気持ちと花を届けています。

職員 埴雄二



国際理解

SDGsをより身近に ワークショップを開催

6月9日(土)にYMCA中央センターでSDGsワークショップを開催しました。SDGsとは国連が定める17の持続可能な開発目標のこと。講師にはこの分野において、第一線で研究・活躍をしている上智大学教授の田中治彦さんを迎えました。

まず外務省がSDGsを紹介するために制作したピコ太郎さんによるパフォーマンス動画を鑑賞。田中さんからSDGsとは何か、という説明を聴き、グループに分かれて発展途上国と熊本の課題をそれぞれ17の持続可能な開発目標のテーマに沿ってカテゴライズしていくワークを行いました。

YMCA会員だけでなく、中学校や高校の教員、大学生など様々な立場の31名が参加。参加者からは「SDGsが取り沙汰されているが、実際に現場(授業)でどう教えたらいいか分からなかったの、非常に勉強になった」「SDGsが自分たちの生活にどれだけ身近で大切なことなのか意識するようになった」「想像以上に分かりやすい解説で、グループワークもとても楽しかった」「様々な立場の方の意見を聞くことができて興味深かった」などの声が上がりました。

職員 工藤瑛里菜



特別講演会 “未来に向けて これからのYMCA運動の方向性”

2018年度熊本YMCA会員大会で行われた前アジア・太平洋YMCA同盟総主事の山田公平さんによる特別講演会の一部を抜粋してご紹介します。

私は2009年から6年半ほど、香港にあるアジア・太平洋YMCA同盟で仕事をしました。アジアの都市部が急激に豊かになっていった時期でしたが、YMCAは変わらず、貧困への支援を続けていました。人間は、“変わる”ための第一歩を踏み出す勇気がなかなか持てないのです。

1970年頃のアメリカのYMCAは民間企業との競争に負け、会員がどんどん減少。YMCAの活動も危うくなる状況になって、大きな変化が起こりました。明るく家庭的な場所としてブランド化を図り、寄付金の使途を明確にして、信頼されている地元の有力者を役員に選出。結果、YMCAが集める寄付額は全米のNGOの中で1位に。現在、YMCAがある土地は安心して住めるといわれるほど、信頼される団体となっています。

日本のYMCAは、キリスト教精神を守り、青少年の健全育成、国際協力の推進、地域ニーズに応えるボランティア活動を大切にしてきました。しかし、国際協力団体が増加した今、YMCAの存在は見えにくくなっています。私たちはこれらの活動を本当に大切にしていたと言えるでしょうか。私がアンケートで、“YMCAが大切にしたいもの”を尋ねたところ、ユースもシニアも「若者の育成」が第1位でした。しかし、私たちは本当に若者のための活動

を行い、若者を育成しているのでしょうか。

YMCAの“いのち”とは何でしょう。制度が対応できない社会の課題に、人と人が結びつく共生社会をつくることだと思います。熊本YMCAは会員運動を大切にしています。会員が自らの思いを寄せ合わせ、社会や青年のために何をするかを考えて具体的に動き出しましょう。その活動を社会に伝え、応援したいという企業が出てくるような活動をすべきです。そこから本当の前向きな気持ちで地域とつながっていくポジティブネットの活動が生まれてくるでしょう。若者や社会の人を受け入れて力にしてYMCAらしい動きにつなげていきましょう。

韓国のYMCAは、10年前から一般公募で選んだやる気のある60人の青年を、毎年海外に送り続けて国際活動を行っています。青年たちは5カ月間、現地の言葉を覚えながら仕事をし、帰国後はYMCAを支える人材となっています。熊本でも、大胆で心をえぐられるような体験ができる場をつくることです。熊本YMCAは、新しいYMCAをつくる力になる一歩を踏み出し、変えるべき部分は勇気を持って変え、地域のニーズのために活動を起こす時だと思っています。



山田公平さん
前アジア・太平洋YMCA同盟
総主事

Snap

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。スマートフォンや携帯電話などで撮影した写真をコメントを添えてお送りください。投稿いただいた写真は、ホームページやYMCA NEWSでご紹介させていただきます。



メール本文に
以下の内容を書いて応募してください。

- 写真タイトル
- 撮影者名(本名)
- ハンドルネーム
- 撮影場所
- 写真についてのコメント



メールはこちらから▶

※画像サイズは横幅900pixel×縦幅600pixel程度以上(横長の場合)で著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限りです。

わたしと聖句

詩編27編4節

ひとつのことを主に願ひ、それだけを求めよう。
命のある限り、主の家に宿り
主を仰ぎ望んで喜びを得
その宮で朝を迎えることを。

試練の中から

2016年4月に被災しましてから、はや、2年を過ぎました。熊本全域にわたって、復興が続けられています。

少し前に、妻と二人で南阿蘇方面へ、久し振りに出かけて参りました。西原村からグリーンロードを越え(通称地蔵峠)久木野村へ出ました。約一時間の遠回りです。道の駅を兼ねる「阿蘇望の郷」で少し休憩をして、改めて、阿蘇の山々を南阿蘇側からながめました。少し心が痛みましたが、やはり阿蘇の山々は、神の御手のわざである事を確信して来しました。

さて、熊本東聖書教会の再建にあたりまして

熊本東聖書キリスト教会
豊世 武士

は、祈りと励ましを頂きまして、心からの感謝と御礼を申し上げます。震災後にすぐに、教会の信徒の方の熊本市内の会社の事務所をお借りして、半年ほど礼拝を行わせて頂きました。また、第一聖日(日曜日)には、益城町の「きやま座」という公民館でしばらく礼拝しました。少しでも、益城町と、住民の皆さん方と関わって行かねばと思っております。

2017年の10月から、キリスト教のボランティアセンターが、以前、教会がありました所の近くにオープン致し「九州キリスト災害支援センター」として開設され、町の議員さんや、区長さんや、町内の方々、教会の方々が参加されました。YMCAからも木山仮設団地等のケアが続けられています。

主は御心の時に、私達の教会を与えてくださる事を信じて、毎日進んで参ります。パビロンに引かれ行ったダニエルが、エルサレムに向って、毎日、祈ったように、感謝。今、二年を過ぎて、復興が少しずつ進んでいます。また、私共も主の守りの中を過ごしています。シャローム!!

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費に含む
www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2018年度基本聖句

コロサイの信徒への手紙 3章14節
愛を身に着けなさい。
愛は、すべてを完成させるきずなです。